

ピースクラブ通信

No.23

発行 社会福祉法人 ピースクラブ
 住所 〒556-0014 大阪市浪速区大國1丁目1-1
 連絡先 Tel & FAX 06-6647-2077
 Eメール peaceclub@s2.dion.ne.jp

桜の木の下

大阪西区・天音堂ギ
 ヤラリーでの個展を終
 えた。地理的にいえば
 大阪で描く絵の最後の個
 展だ。メインの50号は
 何とか間に合ったが、最
 後の作品が5日目に出来
 上がるというドタバタぶ
 りだった。だが何はとも
 あれホッとしている。

ところ、自分で描
 いた絵に、お前は自分
 の描いた絵の本当の意
 味がわかってきているのか
 と問いかけること
 がある。ときには長い
 年月を経ていろいろな
 体験をしたのち初めて、
 ああそうだったのかと
 気づくことがある。ま
 るでそれまでの出来事
 がそれを追体験させる
 ためであったかのよう
 に、である。今回も同
 じような事があった。

先日かじさんが、描
 きかけのその絵に気づ
 かず近づき、はっと身
 震いして飛び退き、鳥
 肌が立ったと言った。
 太平洋戦争中の従軍慰
 安婦を想起したのだそう
 だ。自分としては、よく
 いわれる桜の木の下には
 死体が埋まっているとい
 う話から女性の屍に桜の
 根が絡みつき、吸いとつ
 たその「生命」が満開の
 花を咲かせている耽美的
 イメージで描いているの
 だけれど、その横たわる
 屍は確かに兵士に蹂躪
 されている「慰安婦」に
 された女性の姿に見え
 なくもない。屍がなぜ女
 性なのか、自分の心の中
 にひそむ意識も感じた。

それが幾日かたってそ
 の女性が夢に出てきた。
 夢の内容は思い出せない
 し、その女性も特定の人
 物ではない。しかし、そ
 の夢から覚めた時、初
 めてこの絵の本当の意
 味がわかった。
 人間は誰でも
 多くの生命をもら
 って生きている。
 日々の食物や人
 の善意なども含め
 て、もつと具体的に
 に自分を振り返れ
 ば人の生き血をす
 すり、すすられる
 ような思いで生活
 していたこともあ



った。生き血をすすら
 れたといってもそれは
 自分の被害者意識であ
 り、やはりそこから何
 かをもらっているのだ。
 だから屍体から養分を
 もらって花を咲かせて
 いる桜の木は自分自身
 の姿であり、50号の
 「風」という作品は自画
 像なのだ。

さて、私のピースクラブでの暮らしも残りわずかになりました。3年8ヶ月の間、暖かい交わりの中で上記のように、心身ともに養分をくださり、癒していただきましたこと心から感謝いたしております。

個展のために早めに編集の仕事を下ろしてもらった通信も、岸本君から仰せつかった初期の目的に沿えたかどうかたいへん疑問で、記述の間違い、誤植の訂正に終始していたような気がします。前号も比嘉絢子さんに対して事実関係だけの訂正で申し訳ありませんでした。ここで改めてお詫び申し上げます。

(前編集担当・中村晋作)

●ピースクラブ写真館●

● 京都SL博物館



▲きれいな舞妓さんに男性人も緊張気味？ in 京都駅

● 嵐山トロッコ電車



▲スピード感満点??



▲念願の車掌さんへ変身!!



▲カッコいい列車を見て大喜びで満面の笑み!

● 琵琶湖クルーズ



▲みんなで楽しく汽車旅行!!



▲そよかぜに打たれてリッチな気分!!

● 大山一泊旅行



▲初めての乳搾りに
大興奮!!



▲大きな牛の乳に奮闘中!



▲乳と格闘中



▲乳と格闘中

カラカラさんへ

西村睦子

私がカラカラに寄せ
ていただきましたのは、
平成21年4月からです。
私は四国の高知市内で
坂本龍馬の生まれた近
くで育ちました。昭和
18年10月20日生まれで
す。中学校までおりま
した。高等学校から大
阪に出てきました。平
成9年にたおれてから
今のようになりました。

どうぞよろしくお願
いいたします。なんの
お手伝いもできません
が、皆様のおかげで毎
日楽しくやっておりま
す。これからもどうぞ
よろしくお願いいたし
ます。

(カラカラとは、デイ
サービス部門の名称で
す。)

おくやま 奥山ジヨクソウてんまつ記

猿橋 信

7月21日に大阪赤十字
病院でおつくんの右
足切断の手術が行われ
た。9月いっぱい退院
して現在は大手前整肢学
園の上間OTが細工してく
れた巨大なレンタルの車
椅子に乗っている。よう

やく3時間くらいは座れるようになったが、まだベッドと車椅子の往復である。

お尻の左横にジョクソウがみつかったのが一昨年の正月。春先からどんどん進行してその年に2回の入院と手術。退院後はピースで消毒とガーゼ交換。昨年はだらだらと一進一退がつづき、今年になって反対側にも穴があく。体位交換、1日2回のシャワー、「ラップ療法」のころみと失敗。

右側の穴はどんどん深くなり股関節から骨盤まで。もはや再生することは望めないというこ

わせるという手術となった。小学1年のときの事故の後遺症でマヒしたおっくんの両脚は膝が曲がらず車椅子の上でピンと伸びている。邪魔になるから切ってしまったら：なんて話が中学の頃にあった、と今回初めて知った。お父さんの反対で中止したそうだが、その脚が今回役に立ったんやねえ...と。うーん。

退院が近づいてときどき車椅子に乗ってみる。とうとう片足がないことを実感したのか、「ぼくはもう歩くことはできないのかな」などと言って泣く。もう30年も歩いてないというのに。「右足の指が痛い」とか「膝が寒い」とかいう。それまでそんなこと言ってなかつたのに。はたまた30年

自己紹介 ※手書きのまま掲載しました。

Handwritten introduction text in a grid format. The text is written in a cursive style and contains personal information about the author's health and family.

前のうらみつらみをえんえんと。夜中にナースコールしまくったりベッドの柵を振り回して大暴れしたり。そしてきつちり3か月で退院。しばらくは車椅子は1時間くらいまで、ということ

つてくると、予想どおりベッドに上がりがたくなくと抵抗することが多くなる。長時間外出するためには携帯用のクッションを作るのかなあ。左側には深さ約5センチの古傷がまだ残っている。治